

2010年度採択 研究推進プログラム「科研費連動型」研究成果報告書

研究代表者	所属機関・職名：産業社会学部・教授 氏名：原尻英樹
研究課題	韓国、米国、日本在住中国朝鮮族のネットワーク化に関する文化人類学的研究

・研究計画の概要

研究の計画について、平成22年度科学研究費補助金申請時の計画概要を記入してください。

これまでの筆者によるフィールドデータと中国朝鮮族についての歴史研究より、朝鮮族が当初は移動する農民であり、この前近代の文化資本は中華人民共和国国民となってからも維持され、社会的上昇手段としての北京や日本への大学進学・留学という形で移動が継続された。また、中国内の朝鮮族の人工的村落から他の朝鮮族村への移動も頻繁に起こっていた。そして、中韓国交が開始されて、大量の中国朝鮮族が韓国に移動し、その後、世界各地の韓国人居住国にも広がっていったことが明らかになった。

これらの移動は単なる移民ではなく、中国の経済政策、少数民族政策に対する反応でもあり、また、国境を越えたネットワークの形成過程であると考えられる。人々の生活レベルでの参与観察と、ロサンゼルス及び韓国在住の朝鮮族からのインタビューによると、これらの人々は国家や民族を相対化する視点を持ち、ネットワーク形成の新たな理念構築と生活実践を続けているといえる。これには、グローバリゼーションが関わっており、廉価なコミュニケーション手段と交通手段の発展がこのネットワーク形成に貢献しているといえる。

このように、中国、韓国、日本、アメリカという複数の国民国家のはざまにネットワークを形成している中国朝鮮族の研究は申請者のこれまでの研究を、新たな観点から再考させてくれる材料を提供してくれるといえる。これまでの申請者の研究では国家レベルでは二国間であり、「民族」レベルでは済州島人とそれ以外等であったが、朝鮮族の場合、同民族の韓国人や同国人の漢族とも関わっており、民族概念再考のためのより複雑なデータが収集可能となる。

・研究成果の概要

研究成果について、概要を記入してください。

2010年度は、韓国在住の中国朝鮮族の調査を行った。特に韓国国籍を取得した朝鮮族を中心とした本調査によって、韓国国内におけるこれらの人々の適応状況のみならず韓国国籍取得の目的と今後の生活戦略についてかなり突っ込んだことも明らかになった。韓国在住朝鮮族のうち、韓国国籍を取得した者は概数で13万人強となっている。これらの人々は、(1)韓国国籍者と婚姻した朝鮮族(その大半は朝鮮族の女性)、(2)出生地が朝鮮半島である人々が中国籍から韓国国籍に国籍回復したケース、(3)国籍回復等ではないが、その親が朝鮮半島出生であり、韓国に帰化した人々、(4)中国朝鮮族であることとは法的には関係ない形での帰化した人々、以上に大別される。今後の動向については韓国経済と中国経済が主に関わっているといえるが、中国経済の進展に伴い、中国朝鮮族は減少することが予想できる。しかしながら、韓国へのルートは既に作り上げられている関係から、中国・韓国間のネットワークはそのまま存続し続けるといえよう。つまり、中国朝鮮族にとっては、自分たちのネットワークに韓国も含まれており、行き先、滞在先、国籍取得先のひとつとして韓国があることになる。朝鮮族は自らのバックグラウンドで活用できるものならば、何でも使おうとしているといえる。

この一環としての韓国国籍取得であるが、朝鮮族のネットワーク的思考により、中国、韓国、日本、アメリカ等の国々での朝鮮族の生活を相互に比較して、現在の自分にとってどの国が生活上ベターであるのかを考えたいというので、韓国国籍取得であると考えられる。当然のことながら、時間が経過し、事情が変化すれば、朝鮮族の対応も変化するのであり、彼(女)らの思考として、「絶対安全」などはほとんど考えられていないといえよう。